

# 2008年度前期の実施概要

都市教養学部法学系政治学コース・准教授  
今井 亮佑

## はじめに

ここでは、2008年度前期開講の教養科目について実施された授業評価の、全般的な概要について報告する。対象となるのは、以下の5つの科目群の科目である。

- 基礎ゼミナール
- 都市教養プログラム
- 実践英語 I
- 情報リテラシー実践 I
- 理工共通基礎科目

なお、ここに挙げられた科目群ごとの個別の分析結果については、次次頁以降を参照されたい。

## 実施概要

本SE（学生による授業評価）／TE（教員による授業評価）の実施概要は以下の通りである。

- 実施主体：  
FD委員会・教務委員会、基礎教育部会
- 実施方法：  
担当教員へ事前送付（情報リテラシー実践 I の一部授業は on line で実施）
- 実施期間：  
7月7日～22日の間に配布・実施
- 回収期間・方法：  
7月24日を締め切りとして、基礎教育センター教務課に持ち込み・返送

## 回収率

表1は、SEの対象科目の履修登録者数・回収数・回収

率、授業数・回収数・回収率、及びTEの対象科目の授業担当教員数・回収数・回収率を、科目群ごとにまとめたものである。これによると、SEの「授業数」を分母とした回収率は、どの科目群についても9割程度と、かなり高い。授業を担当する教員の間に、少なくともSEに関しては、自発的に協力する意識がかなり根付いて来ていることの表れであろう。これに対し、SEの「履修登録者数」を分母とした回収率は、特に都市教養プログラムが5割にも満たないなど、必ずしも高いとは言えない。授業の出席率が低いことがその一因と考えられる。TEに関しては、SEの「授業数」を分母とした回収率に比べ、どの科目群についても10%程度低い。SEには協力するが、TEには必ずしも積極的ではない教員が少なからずいることを、この数字は言外に意味しているように思われる。

## 質問項目

表2は、各科目群に共通の項目（共通事項）、個別の項目（個別事項）の質問文を、その項目の略称と共にまとめたものである。選択肢に関しては、標準的なものを下段に載せ、質問項目に固有のものについては、質問文と共に括弧内に記した。

## まとめ

今後も、授業担当教員の自発的協力の下、同一の質問文・選択肢による調査を継続して行うことで、データを蓄積していくことが肝要であると思われる。

表1 科目群ごとのSE・TEの回収率

	SE						TE		
	履修登録者数	回収数	回収率	授業数	回収数	回収率	授業担当教員数	回収数	回収率
基礎ゼミナール	1731	1451	83.8 %	79	74	93.7 %	79	67	84.8 %
都市教養プログラム	10528	5112	48.6 %	73	65	89.0 %	101	71	70.3 %
実践英語 I	1776	1558	87.7 %	88	86	97.7 %	88	78	88.6 %
情報リテラシー実践 I	1755	1493	85.1 %	4	4	100 %	46	41	89.1 %
理工共通基礎科目	5092	3630	71.3 %	64	62	96.9 %	70	58	82.9 %

情報リテラシー実践 I の上段は「質問紙」形式、下段は on line 形式。

表2 質問項目一覧

共通事項		略称
問1	私はこの授業に意欲的・積極的に取り組んだ	態度
問2	授業の目的を意識しながら学習することができた	意識
問3	教員の説明はわかりやすかった	説明
問4	教員は学生の質問・意見に対して適切に対応していた	対応
問5	授業時間外で一週間に平均どのくらい、この授業に関連した学習をしましたか？ (2時間程度—90分程度—1時間程度—30分程度—ほぼ0時間)	時間
問6	成績評価方法について十分な説明があった	成績
問7	シラバスに目標として掲げられている知識や能力を獲得できた	成果
問8	私はこの授業を受講して満足した	満足
個別事項		
基礎ゼミナール		
問9	SE：シラバスの内容は自分の興味に沿っていた TE：さまざまな所属の学生が興味をもつテーマを設定した	主題設定
問10	問題発見と、その解決に向けた取り組み姿勢の重要性を認識した	問題発見
問11	ディスカッションやプレゼンテーションなどの自己表現能力を向上させることができた	表現能力
問12	教員によるテーマの解説部分に対し、受講生による議論・調査・発表の時間のバランス はどうでしたか？ (少なすぎた—やや少なかった—ちょうどよかった—やや多かった—多すぎた)	バランス
都市教養プログラム		
問9	この授業の選択に当たって、シラバスが役に立った	シラバス
問10	この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか (易しい—やや易しい—ちょうどよい—やや難しい—難しい)	難易度
問11	この授業を受講して、自分の視野が広がった	視野拡大
問12	《教員の指示に従って下さい》	表記無し
実践英語 I		
問9	今年度の統一教科書の難易度はどうでしたか (易しい—やや易しい—ちょうどよい—やや難しい—難しい)	教科書
問10	統一教科書による授業の中で、いちばん関心をもって取り組むことができたのは何ですか (発音練習—語彙の学習—構文理解—英文和訳—内容理解)	関心主題
問11	この授業は、今後のあなたの英語学習に資するところがあった	学習貢献
問12	日本人教員授業とNSE授業を毎週1コマずつ履修する実践英語 I のカリキュラムによって、英語学習への意欲が湧いた	課題設計
情報リテラシー実践 I		
問9	この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか (易しい—やや易しい—ちょうどよい—やや難しい—難しい)	難易度
問10	Wordについてよく知り、活用することができた	Word
問11	Excelについてよく知り、活用することができた	Excel
問12	Power Point またはホームページ作成またはプログラミングなどについてよく知り、活用することができた	ppt 他
理工共通基礎科目		
問9	この授業の1クラスのサイズは適当であった (多すぎる—若干多い—ちょうどいい—若干少ない—受講生が少なすぎる)	受講生数
問10	快適な環境下で授業を受けることができた	教室環境
問11	この授業のテーマは自分の関心にあっていた	関心合致
問12	この授業の難易度は、あなたにとってどうでしたか (易しい—やや易しい—ちょうどよい—やや難しい—難しい)	難易度
標準的選択肢		(強くそう思う—そう思う—どちらとも言えない—そう思わない—全くそう思わない)